



学校だより

R8年8・9月

大阪市立長吉南小学校

夏休みが終わり、子ども達の元気な声が学校に戻ってきました。久しぶりに学校で友だちや先生達に会えること、教室でともに語り合うことを楽しみにする思いが感じられました。

夏休みを楽しんだ後、気分を一新、「2学期のスタート」を迎え、これからの学習や活動に期待を膨らませる姿から、教職員も元気とエネルギーをもらいました。

2学期も子ども達が意欲的に活動し、達成感をもって成長できるよう支えてまいりたいと思います。どうか、これからもよろしくお願いいたします。



「2学期始まりの日にあたって ～命の尊さと備えの大切さ～」

今年の夏、全国で胸の痛むニュースが相次ぎました。7月28日に発生した「令和8年熊本地震」、お盆時期の「千葉県を中心とする想定外の豪雨災害」など、ご親戚や知り合いが被害に遭われたご家庭もあるのではないかと案じております。

被災された皆様に心よりお見舞いを申しあげますとともに、今なお避難生活を余儀なくされている方々のご健康・安全と一日も早い復旧を深くお祈りいたします。

被災地から離れているとはいえ、こうした災害の報道に触れるたび、いつどこで起こるか分からない自然災害への「備え」の大切さを強く実感させられます。本校では例年、6月に「地震・津波の避難訓練」「防災サタデー」「児童引き渡し訓練」等を実施し、保護者・地域の方々とともに、防災の意識を高め、「命を守る」大切さを子ども達に伝えてまいりました。子ども達は毎回、興味・関心をもって活動に参加し自然災害の怖さや防災の大切さについて理解してきました。しかしながら、平穏無事な時には、実際にわが身にも起こりえる脅威として捉え実感を持つことは、大人ですら難しいように感じています。

平和な日常は、自然や環境のおかげで保たれています。人間も実はこの途方もない大きな自然界の一部であり、まず穏やかな自然があってこそ、安全で平和な日常があると言えます。自然の力は優しくもあり、時にその大きな力で、私たちの生活を破壊することもあります。尊い「当たり前」の生活に感謝しながら、自然を侮らず万が一に十分備えることが、自然を敬い共存する本当の意味だと考えています。

ご家庭におかれましても、被災地の現状や被災された方々への思いに触れながら、身近な日常の安全や非常時の対応・備えについても、お子様と一緒に話し合っていたいただけたらと願っています。

(校長 吉村 幸子)